

[成果情報名] ウンシュウミカンの開花期から幼果期における黒点病を主体とした効果の高い体系防除法

[要約] ウンシュウミカンの黒点病に対して、満開期のセルカディス D フロアブルと 6 月上旬の幼果期のストロビードライフロアブルとマシン乳剤混用の体系防除は、慣行防除体系と比べ効果が高く、灰色かび病、そうか病に対しても安定した高い効果がある。

[キーワード] ウンシュウミカン、開花期防除、黒点病、灰色かび病、そうか病

[担当] 長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・カンキツ研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 普及

[作成年度] 2025 年度

[背景・ねらい]

ウンシュウミカンの満開期から落弁期にかけて灰色かび病、そうか病、黒点病の 3 病害を対象とした同時防除が行われている。各病害に対し安定した高い効果を持つ薬剤選定などは防除体系を確立する上で重要である。

そこで、黒点病、灰色かび病、そうか病に対する開花期同時防除と黒点病に対する 6 月上旬の体系防除について、ジチアノン剤と夏季マシン油との体系散布とストロビードライフロアブルの耐雨性強化を目的とした体系散布での防除効果を検証する。

[成果の内容・特徴]

- 1 . 黒点病に対して満開期のセルカディス D フロアブルと 6 月上旬のストロビードライフロアブルとマシン乳剤混用の体系防除は、慣行防除の落弁期のストロビードライフロアブルと 6 月上旬のエムダイファー水和剤との体系防除と比べ効果が高い (図 1) 。
- 2 . 灰色かび病、そうか病に対して満開期のセルカディス D フロアブルによる防除は、ストロビードライフロアブルおよびフロンサイド SC と比べ効果が同等以上である (図 2) 。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . セルカディス D フロアブルの 1000 倍と 1500 倍は、黒点病、灰色かび病、そうか病に対して同等の防除効果であることが、他県の事例において確認されている。
- 2 . セルカディス D フロアブル、デランフロアブルなどのジチアノン剤は、他剤との混用、開花期以降のマシン油乳剤との近接散布 (概ね 30 日以内) 、夏季高温期の散布で薬害を生じるおそれがあるので、利用にあたっては十分注意する。
- 3 . 6 月上旬のストロビードライフロアブルにマシン油を混用散布することで、ミカンハダニへの防除効果も期待できる。

[2025 年試験の概要]

- 1 . 供試樹 : 「原口早生」22 年生、幼果期防除 : 6 月 4 日、散布量 : 400L/10a 相当
- 2 . 開花期防除 : セルカディス D フロアブルは 5 月 2 日 (満開期) 、ストロビードライフロアブルは 5 月 12 日 (落弁期) 、散布量 : それぞれ 400L/10a 相当
- 3 . 散布日 (6 月 4 日) から調査日 (7 月 2 日) までの累積降水量、降雨日数 : 363 mm、12 日

[2023 年試験の概要]

- 1 . 供試樹 : 「岩崎早生」17 年生、散布日 : 4 月 28 日 (満開日 4 月 24 日) 、散布量 : 400L/10a 相当

[具体的データ]

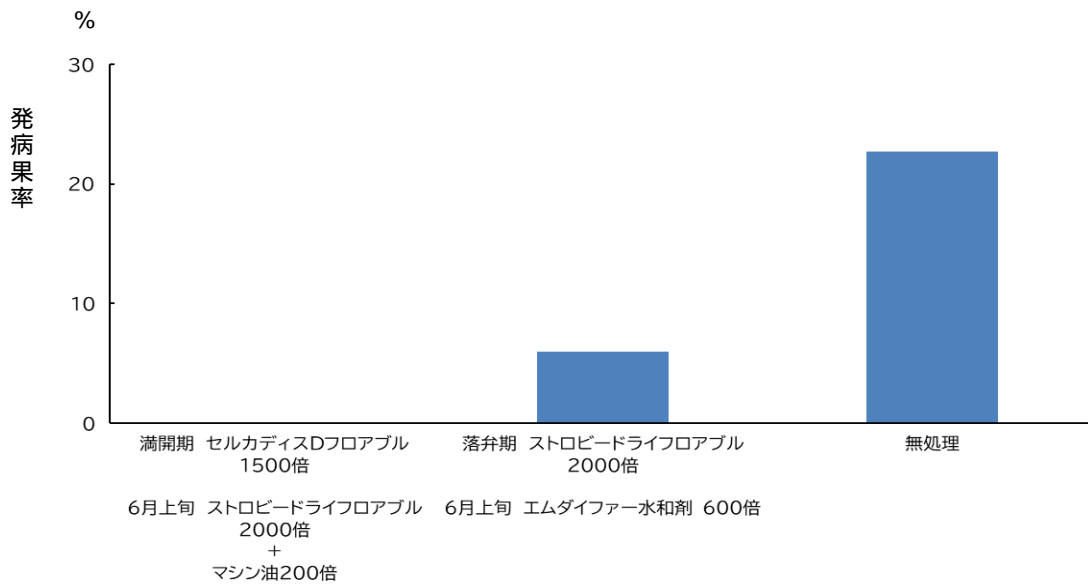


図1 開花期から幼果期の体系防除における黒点病の発病果率 (2025)

調査は、7月2日に行い、区あたり1樹3反復について、1樹あたり50果を下記の発病程度指数に分けて実施した。なお、発病果率は、商品性の問題となる発病程度指数3以上とした。

- 0 : 病斑がない 1 : 病斑が散見される 3 : 病斑が果面の1/4以下に分布
 5 : 病斑が果面の1/4~1/2に分布 7 : 病斑が果面の1/2以上に分布

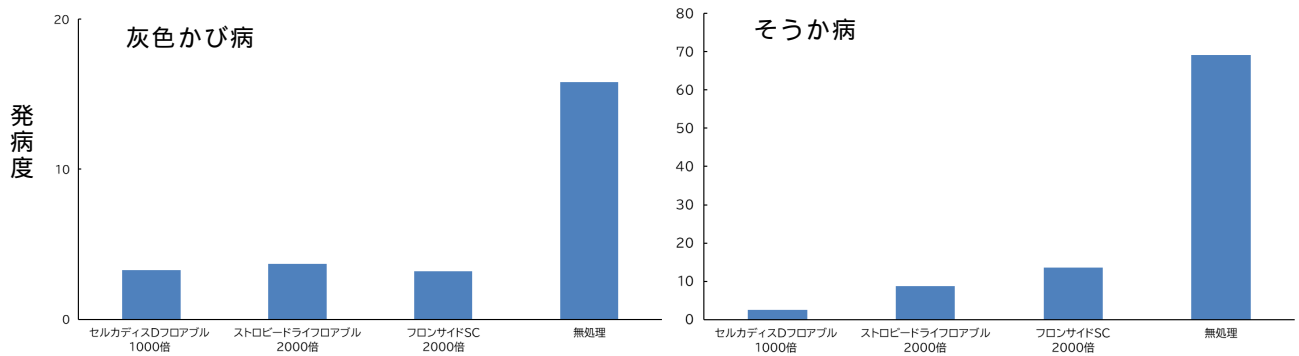


図2 セルカディスDフロアブルにおける灰色かび病、そうか病の発病度(2023)

調査は、灰色かび病は6月1日、そうか病は7月10日に行い、区あたり1樹3反復について、1樹あたり100果を下記の発病程度指数に分けて実施した。

- 灰色かび病 (果実) 0 : 被害がない 1 : 極わずかに傷がある 3 : 明瞭な傷が広範囲にある
 そうか病 (果実) 0 : 病斑がない 1 : 病斑が果面の1/4以下 3 : 病斑が果面の1/4を超える

[その他]

研究課題名： カンキツ病害虫の防除法、果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査

予算区分： 受託 (九州病害虫防除推進協議会)、 県単

研究期間： 1984年～、1984年～

研究担当者： 内川敬介、小嶺正敬